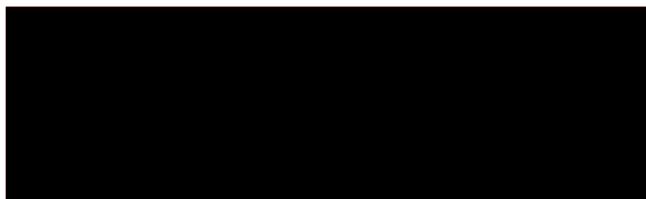


## 中学校音楽指導案



1 題材名 曲想を感じ取り、創意工夫をしてリコーダーを演奏しよう

### 2 学習指導要領の指導事項

ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。

イ（ア）曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。

ウ（ア）創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体に使い方などの技能を身に付けること。

### 3 題材の目標

「聖者の行進」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、それらを生かした器楽表現を創意工夫してリコーダーで演奏する。

### 4 教材について

「聖者の行進」（アルトリコーダー二部合奏）アメリカ民謡/浦田健次郎 編曲

「聖者の行進」は、スピリチュアルの一つで、アメリカのニューオーリンズでアフリカ系の労働者たちによって自然発生的に誕生した曲である。原曲のタイトルは

「When The Saints Go Marching In」で、ディキシーランドのメンバーとしても知られている。墓地から戻ってくるでは人が亡くなった際、墓地へ埋葬に向かうときは悲しげな曲を演奏し、墓地から戻ってくるときは一転してこの曲のように明るくにぎやかな曲を演奏する風習がある。

本教材は、浦田健次郎編曲にアルトリコーダー二部合奏で、掛け合い、ユニゾン、和声的な重なるの三つの部分で構成されているスタッカート奏法やポルタート奏法などのアーティキュレーションについて、わかりやすい学ぶことができる教材である。

## 5 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<p><b>【関①】</b> 「聖者の行進」の曲想に心をもち、音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p><b>【創①】</b>「聖者の行進」の旋律、テクスチャを知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲想を味わって音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p>	<p><b>【技①】</b>「聖者の行進」の曲想を生かした音楽表現をするために必要な奏法などの技能を身に付けて演奏している。</p>

## 5 題材の指導計画（総時数 1 時間、本時は 1 / 2 時間）

時	◇ねらい ●学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点
1	<p>◇「聖者の行進」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。</p> <p>●本題材の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでのアルトリコーダーの学習について振り返る。</li> <li>・本題材では、アルトリコーダーで「聖者の行進」（二部合奏）にチャレンジすることを知る。</li> </ul> <p>●「聖者の行進」の指導用 CD を聴き、曲想に関心をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導用 CD を聴く。</li> <li>・全体的な雰囲気について感じたことを発表し、学級全体で共有する。</li> </ul> <p>●主旋律を全員で演奏する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主旋律のラインを教科書の楽譜で確認する。</li> <li>・主旋律を演奏できるようにする</li> </ul> <p>●楽譜を見ながら「聖者の行進」の指導用 CD を聴き、音楽の構造をつかむ。</p>	<p>○運指やタンギングなど、これまでに学んだことを確認させる。</p> <p>○4 人グループで音楽表現を追求していくことを伝える。</p> <p>○教科書の楽譜を見せずに指導用 CD を鑑賞させる。</p> <p>○「明るい感じがする」「掛け合いが楽しそう」などの全体的な雰囲気を共有させる。</p> <p>○黒板に、主旋律の実の楽譜を提示する。</p> <p>○最初に、この曲で使う音の運指を確認させる。</p> <p>○楽譜を見ることにより、音楽の構造に目を向けさせる。</p>

- ・教科書の楽譜（二部合奏）を見ながら指導用 CD を聴く。
- ・旋律やテクスチャなどの音楽の構造に注目し、指導用 CD を聴いて気付いたことや感じ取ったことをワークシート①に記入する。
- ・ワークシート①に記入したことを発表し、音楽の構造について学級全体で共有する。

- 指導用 CD のリコーダーの奏法に注目しながら「聖者の行進」を聴き、奏法を使い分けていることに気付く。
- ・リコーダーの奏法に注目しながら指導用 CD を聴く。

・指導用 CD を聴いて気付いたことを発表し、リコーダーの奏法を使い分けていることについて学級全体で共有する。

- アーティキュレーションについて学び、奏法によって雰囲気が変わることを実感する
- ・スタッカート奏法によってポルタート奏法を用いていることを確認する。
- ・「聖者の行進」の最初の部分をスタッカート奏法とポルタート奏法で演奏し、奏法によって曲の雰囲気が変わることを実感する

○音楽の形づくっている要素うち、旋律とテクスチャに注目することを伝える。

○テクスチャの視点から、「掛け合い」「ユニゾン」「和声的な重なり」の三つの部分があることを確認する。」  
なお、これらの用語の意味を理解させる。

○弾むような感じで演奏している部分と滑らかに演奏している部分があることを確認させる。

○旋律のフレーズに目を向けさせ、奏法のとの関わりについて意識させる。

○教科書の「アーティキュレーション」のページを与

用いながら、ここでは、「スタッカート奏法」「ポルタート奏法」が使われていることを確認させる。

○最初の部分を用いて、奏法の違いを教師が範奏する。

○二つの奏法の違いを出すために、タンギングを工夫するなどのポイントを確認させる。

	<p>◇「聖者の行進」の旋律、テクスチャを知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや</p> <p>◇「創意工夫を生かした表現で[聖者の行進]を演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表す。</p> <p>◇「聖者の行進」の曲想を感じ取り、リコーダーの総合を工夫することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に器楽の学習学童に取り組む。</p>	
2	<p>●アーティキュレーションについて復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に学んだアーティキュレーションについて振り返る。</li> </ul> <p>●グループ（4人）で「聖者の行進」の音楽表現を創意工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4人グループをつくる。</li> <li>・「聖者の行進」の関わる情報を集める。 (例)</li> <li>・「聖者の行進」に関わる情報を集める</li> <li>・「聖者の行進」のいろいろな演奏を聴く</li> <li>・リコーダーの奏法について調べる</li> <li>・グループでどのような思いや意図をもって演奏したいか話し合い、ワークシート②に記入する</li> <li>・思いや意図を実現するためには、奏法をどのように工夫するかについて話し合い、ワークシート②に記入する。</li> <li>・グループ内で二つのパートに分かれて練習する。</li> <li>・グループ内で二つのパートに合わせ、</li> </ul>	<p>○スタッカート奏法とポルタート奏法について確認させる。</p> <p>○タブレット端末を用いて、web上の情報サイトや動画サイトを利用してもよいことを伝える</p> <p>○旋律やテクスチャ、フレーズなどの音楽の構造にも想起させる。</p> <p>○前時のアーティキュレーションの工夫について想起させる。</p> <p>○互いに教え合えるように声をかける。</p> <p>○自分たちの思いや意図が演奏の音楽表現に結びついているか、タブレット端末に録画するなどして確</p>

	奏法を工夫しながら演奏する。 ・	認する。
--	---------------------	------

## 6 本時の指導

時間	学習内容	備考	評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○めあての確認</li> <li>○これまでのアルトリコーダーについて振り返る。</li> <li>○アルトリコーダーで「聖者の行進」(二部合奏)にチャレンジすることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルトリコーダーでドからソまでの運指を確認する。</li> </ul>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「聖者の行進」の指導用 CD を聴き、曲想に関心をもつ。</li> <li>○全体的な雰囲気について感じたことを発表し、共有する。</li> <li>○プリントに階名を書く</li> <li>○上の段だけ全員で演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主旋律を演奏できるようにする。</li> </ul> </li> <li>○下の段だけ全員で演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・下の段を演奏できるようにする。</li> </ul> </li> <li>○上の段と下の段で演奏する生徒を分けて、全員で合奏をする</li> <li>○奏法について説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に感想を聞く</li> <li>・黒板にドからソまでの音符を書き、生徒に階名が分かるようにする。</li> <li>・スタッカート奏法とポルタート奏法の説明。</li> </ul>	【関①】

終末	○本時の振り返り		
----	----------	--	--